

令和7年度 第6回伊予市行政評価委員会 会議録

日時：令和7年10月29日（水）18時25分～19時55分

場所：伊予市庁舎4階大会議室

出席者：倉澤生雄委員長、山邊彰三副委員長、牧本公明委員、日野功委員、上岡宏美委員、武内和治委員

事務局：企画振興部企画政策課（向井功・谷仲・向井英・曾我部）

傍聴者：なし

1 開会

会議の成立を確認した。

2 議事

（1）第5回会議録の確認

第5回委員会では、社会教育課所管の「コミュニティ・スクール導入推進支援事業」を含む、3事業を審議した。

会議録については、各委員において発言内容等に誤りがないか確認を行った後、伊予市ホームページへ掲載する。

（2）外部評価結果の確認

（3）本委員会に対する提案、意見等

（4）次回の委員会日程

（5）その他

3 閉会

(2) 外部評価の結果

(事務局)

事前に配布した「令和7年度行政評価 外部評価結果（案）」をご覧いただきたい。前回委員会までに、外部評価を行った14件の事務事業の概要、そして、各委員の主な発言を要約して記載している。本日確認いただいた後、体裁を整え、市長への答申としたい。

外部評価結果の確認の進め方は、委員会各回で審議した事業（3、4事業）毎で区切って、そのまとまりで確認及び発言いただく形としたいがよろしいか。

[「賛成」と呼ぶ者あり]

それでは、各回のまとまりで説明する。

P1の(国保)保健衛生普及事業からP5の婚活事業までの3事業を読み上げる。

お気づきの点、御意見があれば発言をお願いしたい。

(委員)

(国保)保健衛生普及事業について。二つ目のコメントに成果指標について言及がある。抑制できた医療費の具体的な金額に見直すべきとの意見は理解できるが、現実問題として、その金額をどのように算出できるのか。後発医薬品の利用による差額は分かるが、それを目標値として適切な数値を設定できるのか疑問に感じる。その点は大丈夫だろうか。

(事務局)

本コメントは、担当課同席の場で委員から頂いたものである。本意見を受けて適切な数値が設定できるか検討してもらう必要がある。もし適切な数値が設定できない場合は、他の適切な指標を設定できないか再検討することになる。一つのきっかけ作りとして、コメントとして入れさせていただいた。

(委員)

(国保)保健衛生普及事業について。行政は通知活動に力を入れているが、市民はほとんど見ていないのではないか。市が医療費削減を重要と考えるなら、一般財源の削減にもつながるため、もっと効果的な方法を考えるべきである。例えば、市役所から3か月後に案内が来るような、医療機関と連携した情報提供の方が効果的ではないか。

(事務局)

医療費の削減という点については、今回は一つの事業の中で実施している内容であるため、どうしてもジェネリック医薬品の通知に重きが置かれて表現さ

れている。しかし、市全体としては医療費削減に伴う事業は他にも実施しているため、本来であれば関連・連携事業の欄に記載があれば分かりやすい。今後は、本欄をしっかりと活用してもらえるよう周知に努める。

[その他の指摘、追加意見なし。]

P7の中山農産加工場管理運営事業からP13の観光イベント事業の4事業を読み上げる。

お気づきの点、御意見があれば発言をお願いしたい。

(委員)

(都市文化)都市総合文化施設運営事業について。マンホールカードを例に挙げて、ウェルピア伊予にしかない特別なものをアピールしてほしいと意見した。ぜひ追加してもらいたい。

(事務局)

コメントに追記する。

(委員)

観光イベント事業について。成果指標の「想定される事業活動の成果」が補助対象イベント実施数となっており、定性的な評価として「地域観光振興を図ることができた」との取ってつけたような記述のみである。入力内容の見直しが必要でないか。

(事務局)

御指摘のとおりである。本来であれば、右側に書かれている「地域の観光振興を図る」が成果として記載されるべきであり、それに対してどのような具体的な活動があったかを記載すべきである。所管課に修正を指示する。

(委員)

秦皇山施設管理運営事業について。私は行政がやるべき事業ではなく、民間に移行すべきと考える。民間委託して運営する形が良いのではないか。

(事務局)

民間活用については、委員会の中で、グランピング施設に生まれ変わってうまくいった事例もあるとの意見があったように記憶している。その意見を取り入れ、所管課が検討するきっかけとなるよう、コメントを追記する。

[その他の指摘、追加意見なし。]

P15の防災訓練事業からP21の食と食文化のまちづくり事業の4事業を読み上げる。

お気づきの点、御意見があれば発言をお願いしたい。

(委員)

防災訓練事業について。三つ目のコメントに「本事業の取組が全体の中で」とあるが、「全体」が何を指すのか分かりにくい。「防災行政」に変更する方がよいのではないか。

(事務局)

議事録を確認し、表現を修正する。

[その他の指摘、追加意見なし。]

P23のコミュニティ・スクール導入推進支援事業からP27の児童生徒健康診断事業までの3事業を読み上げる。

お気づきの点、御意見があれば発言をお願いしたい。

(委員)

学校安全対策事業について。赤字表記が「スクールショーシャルワーカー」となっているため、修正をお願いする。

コミュニティ・スクール導入推進支援事業について。一番下のコメントに「地域活性化に向けた取組が各部署でバラバラになっており、上位の段階でこれらの事業を」云々とある。「上位の段階」という表現が分かりにくい。「部署横断的にこれらの事業をまとめて検討する必要がある」という形に修正してはどうか。

(事務局)

議事録を確認し、分かりやすい表現に修正する。2文目の「横断的な検討が不可欠」という点も踏まえて検討する。

(委員)

学校安全対策事業について。最後のコメントに「職務を大切にできるよう」という表現がしっくりこない。私の解釈ではあるが、非常に重要な職務であるため、例えば「職務に集中できるよう」や「職務に精励できるよう」といった表現の方が適切ではないかと考える。

(事務局)

表現を修正させていただく。

[その他の指摘、追加意見なし。]

(事務局)

以上で、外部評価を行った14件の確認が終了した。

本日の確認資料について、御指摘の点は修正を施し、改めて提示する。その際、お気づきの点があれば、事務局までお知らせいただきたい。

(3) 本委員会に対する提案、意見等

(事務局)

本年度は、数年来取り組んできた事務事業評価の見直しによる新たな手法を本格実施した年となった。

第10期1年目の外部評価をとおしての意見・感想など、各委員から発言いただきたい。

(委員)

マネジメントシートについて。担当者が入力に非常に苦労しているのを感じる。入力箇所を全て埋めてもらうためには、分かりやすくする必要もあるだろう。定期的な見直しは実施しているのだろうか。

シートを見ていて気になったのは、事業終了年度が入力されていない事業が多い。1回目の会議で、3年を区切りとして事業実施するとの説明があったが、担当者は事業の終期を見越して取り組めていないではないか。

(事務局)

事業終了年度は、完全に事業を廃止することが明確な場合に入力する。現状、終了年度が想定できていない場合は「設定なし」にチェックを入れるようになっている。事務事業評価の見直しによって3年に1回、区切りを設け、事業の成果・効果をしっかり見直し、あり方を判断してもらうという意図で、3年周期の評価サイクルに変えたところである。

シートについては、昨年度までの見直しを経て、本年度からこの形で本格実施となっている。本シートも運用の中で分かりにくいところは見直しをかけながら、ブラッシュアップしていく予定である。

職員の記入の難しさについては、指標設定のところでも課題があるが、十分に理解できていない部分も大きい。職員が統一した考え方で入力できるよう、記入要領なども事務局で作成し、統一的な対応ができるようにしたい。

(委員)

今期の事業評価において、かなりの頻度で部署横断的な連携や関連性を見出した方が、相乗効果が得られるのではないかという指摘があったと記憶している。例えば、観光イベント事業の「連携事業及び関連事業の有無」の欄には二つの事業が入力されているが、それ以外では入力されたものは少なかったように感じる。

所管部署が本欄をどのように判断しているのか気になる。私たちの指摘も含め、今後そういったことをもっと意識して事業に取り組むことが必要であると感じた。

(事務局)

「連携事業及び関連事業の有無」の欄については、入力が芳しくないのが課題と認識している。この欄を設けたのは、横断的な連携や関係を持つことで、例えば事業を統合したり、重複を減らしたりすることに意識を向けてもらいたいという意図もある。記入の判断基準については、職員が統一できるよう、研修を通じて理解促進を図る予定である。

(委員)

これまでの評価でも、事業内容が重なっているのではないか、効率性が悪いのではないかという指摘があったと思う。本欄に記載があれば、所管部署がどのように把握・認識し、方向性を考えているのかという質問にもスムーズに入れる。逆に「こういう方針だ」と説明できれば、それで議論が終わることもある。そういった意味でも、もっと整理していただいた方が良いと考える。

(委員)

外部評価のポイントをまとめてもらったのは、議論する上で非常に参考になった。一方で、外部評価ポイントに論点として挙げているにもかかわらず、それがマネジメントシートに反映されていない、あるいは補足資料がないと分からぬということがあった。せっかくポイントが示されているので、それが分かるように入力内容や補足資料を充実してもらいたい。

また、成果指標について、本当にこれで良いのかという指摘が多かったと記憶している。おそらく各事業の中で出てきた数値を担当者がそのまま持ってきているのだと思うが、私たちが一番聞いたかったのは「伊予市がどう変わったのか」という点である。それこそ、人口が増えたのか減ったのか、犯罪や事故の件数は増えたのか減ったのかといった、より大きな、市民の日々の生活から見て分かるような指標が必要である。担当者には、普段あまり使わない統計や数値も確認してもらう手間をかけることになるが、より広い目線から事業を見返してもらい、成果指標がより評価しやすい数値になるよう努めてもらいたい。

(事務局)

外部評価のポイントについては、今回の見直しで新たに追加した内容である。これまでの会議では、議論がオープンすぎて、どこに絞って意見を述べれば良いか分かりにくかったため、このような形にさせていただいた。御指摘の

とおり、シートに現れていないため論点が進まないという点もあるため、修正を加えていきたい。

指標の設定については、職員がイメージできていない部分もある。手持ちの数値からしか考えていないため、適切な指標になっていない状況であると認識している。この状況を打破するため、事業の活動指標や成果指標を生成AIに提案させ、うまく活用できるか職員が考えるきっかけにしてみようかと考えている。指標設定の考え方さえ身につければ、生成AIに頼らなくても導き出せるはずである。

まずは研修の中で、機械的に「こういうものが指標として適切ではないか」と考える練習を実施してみようかと思案している。次年度以降、指標の設定が変われば良いと期待してもらいたい。

(委員)

最初は難しいと感じたが、一つ一つの事業を見ていくうちに、地域のことがすごく分かり、伊予市がどのように考えて、どのような活動が行われているのか深く理解でき、とても勉強になった。

外部評価のポイントは分かりやすいが、もう少し細かくしてほしい。現状ではざっくりしているため、より細かくしてもらえれば、委員も市民ももっと考えやすくなると思う。また、補足資料ももっとたくさん欲しい。資料が多いほど、より深く考えられる。利用するかしないかは別として、もう少し欲しかった。

また、審議の大前提として、伊予市の概要（人口、子どもや学校の数など）が分かる資料があると、全ての事業に関係してくるため、評価がしやすくなると思うため、検討してもらいたい。

(事務局)

伊予市の概要や状況については、評価の大前提となるものであり、なるほどと感じた。どのようなものが適切か提供できるのか、今後検討させていただく。

(委員)

自分なりのテーマを決めて審議に臨んでいる。そうでないと、意見が散漫になるとを考えるからである。

1期目は、事業の目的と成果指標を非常に重要視して確認し、成果指標に対してはかなり多くの意見を述べさせてもらった。

今年度のテーマは、過去にも委員会で取り上げられた事業について、その後の現状がどうなっているのかを確認することであった。他の委員の意見を聞い

ていると、過去の委員会にも同じような意見が出てくる。なぜ同じような意見が出てくるのかというと、結局、前回の答申に対し、どのように対応し、どう変わったのか、あるいは変わっていないのであればなぜ変わらなかったのかということが十分に説明されていないためである。一度議論したにもかかわらず、同じ課題が上がり、同じ意見を繰り返すのは時間の無駄である。改善できたこと、できなかつたこと、環境の変化がどう影響したかなど、過去の経緯に対するコメントがない状況は改善してもらいたい。事業をブラッシュアップしていくためには、委員会で指摘されたことがどのように改善されたかという過去の経緯を明確にすべきである。これについては、事前に資料配布していただいても良いし、事務局から口頭で説明していただいても良い。

外部評価のポイントを提示してもらうことは、以前と比べて助かった。しかし、そのポイントを見ないと、マネジメントシートの内容から問題点を把握できないという指摘もあった。外部評価のポイントに示されている内容が読み取れないのであれば、マネジメントシートが本来の役割を果たせていない。マネジメントシートに問題があるのか、担当者の問題なのかは分からぬが、もう少しマネジメントシートの入力内容をブラッシュアップできるように努めてもらいたい。

委員会では、マネジメントシートについて担当者からの説明があったが、担当者によってかなりレベルが違うと感じた。考え方方が明らかに誤っているものも散見されたが、そのようなマネジメントシートがなぜ外部評価の場にまで上がってきたのか不思議である。マネジメントシートの作成過程では、様々な職員が目を通しているはずである。所属長や所管部長が見ているはずなのに、なぜ差し戻しなどの作業がなされないのか。作成されたものが、そのままの状態で上がってくるのは非常に不思議である。

また、必ずしも悪いとは言えないが、それぞれの判定段階で認識の乖離があるようを感じる。担当者は「問題なし」としているが、部長のコメントを見ると「こういう課題があって、行政評価委員会に諮る」とある。これは問題意識の差なのか、チェックが不十分なのか。あるいは問題点が逆に隠されているのかと気になる。マネジメントシートはまだ十分に機能できていないところがあると思う。各評価段階で問題点があれば差し戻すべきである。そして、それが適切な形で委員会に上がり、最終的に公表されるのがベストな形ではないか。

成果指標と目的の設定について提案する。成果指標は担当者レベルで決めるのではなく、課長や部長も含めた部署内で検討する必要があるのではないか。設定された成果指標で、当該事業の目的を適切に評価できるのかという議論が

なされているのか非常に疑問である。成果指標が不適切であれば、事業が適切に評価できなくなってしまう。最終的な事業評価にも関わる問題である。特に成果指標が不適切な場合、委員会の場で検討を重ねても十分に外部評価の機能を発揮できなくなってしまう。

補足資料について。例えば児童生徒健康診断事業でも発言したが、改善要望があったとコメントがあるにもかかわらず、どのような改善要望があったのかどの資料を見ても全く記載がない。スクールソーシャルワーカーに係る相談人数などのデータも、年度ごとの推移や、それが家庭にどう影響したかなどがなければ、判断しようがない。多いのか少ないのか、うまくいっているのかといった判断が全くできない。ただ資料を提出するのではなく、事業を見る上で問題点がある場合、どのような資料が必要か部署内で十分に検討した上で、何を見せるか、何を提出するかを検討していただきたい。

(事務局)

非常に厳しい御意見を頂いたが、これまでの行政評価の反省点として事務局も同様に感じている。事務事業評価の抜本的な見直しを図ったのは、評価自体が「作業化」しているという課題感があったためである。それを何とかしたいという思いで、ここ数年で見直しをさせていただいた。

今まさに過渡期であり、職員には負担もかけながら進めている。委員各位からも御意見を頂いているとおり、評価に係るコストとして、かなりの人も時間もかけているものであるため、組織として有意義なものにしなければならない。今後も研修等を通じて、職員一人一人の理解を深め、行政評価の目的や意義を十分に認識した上で臨んでもらえる環境にしていきたい。何とか形にできるよう努力していくので、引き続きよろしくお願いする。

(委員長)

今年度の委員会では、当初は自由に発言してもらう形としたが、時間があまりにかかりすぎたため、途中から運営方法を変えた。急な変更となつたが、委員各位の協力により、円滑な審議ができたと考えている。

伊予市は総合計画を作成しているため、一つ一つの事務事業は全て上位の施策に紐づけられているはずだ。総合計画にはKPIを設定し、数値目標を盛り込んでいる。全てではないが、それらを事務事業評価の成果指標にも活用できないだろうか。施策のKPIを達成する手段として事務事業は実施されている。総合計画を活用し、市の取組を論理的に体系立て、考えを整理していくのが良いと考える。私自身、総合計画の策定に携わることが多い。策定過程には一生懸命になるが、完成すると誰も見ていないような雰囲気がしてならない。素晴らしい

計画を作成しても、市民も見ていないし、職員もどうなのかというところがある。せっかくお金と時間をかけて策定した、数年間の伊予市の将来像を描いたものであるため、しっかりと活用すべきである。

また、施策の縦割り、予算の縦割りのため、縮小や統廃合の阻害要因になっていると感じることがあった。このため、前に進めようとしても現状では手がつけられないような状況に陥っている。予算的なことは分からぬが、何とかならないものだろうか。

最後に、行政評価委員会で審議する事務事業の中には、数年前に評価したものが再度諮られるケースがある。今回評価したものは数年後まで結果が見えないかもしれないが、次回評価する際には、今回指摘したことがどう対応され、どう改善されたのか見える化するサイクルがないと、良い形でプラスにならない。そこはぜひ検討を加えて、改善してもらいたい。

(事務局)

総合計画について、情報共有させていただく。現在、次期の総合計画を策定中であり、今年度と来年度に時間をかけて取り組んでいく。

各委員から頂いた御意見のとおり、一つ一つの事務事業が上位施策のどこに効果があるのか、つまり施策のKPIの達成にどうつながっていくのか。この点は、マネジメントシートだけではなかなか表現しにくく、当該事業だけの視点で入力された内容となってしまっている。伊予市のまちづくり全体において、どのような成果・効果があるのかという視点は、私も改めて認識させられるところがあった。

次期総合計画を策定する中で、施策のKPIを設定する作業を進めるため、本日頂いた意見を踏まえ、行政評価にも活用できるより良いものとしたい。

(4) 次回の日程

(事務局)

日程の前に、今後の予定について簡単に説明する。本日の委員会での意見を取りまとめ、事務局で答申案を作成する。それをもって、委員各位に最終確認を行い、市長への答申とする。

答申を踏まえ、市長、副市長、教育長、部長級職員による経営者会議において、最終判断を行い、議会への報告及び市民への公表を行うこととする。

次回の委員会では、先程説明した最終結果を報告させていただく。当初の案内では、令和8年2月18日（水）開催予定としているが、日程がまだ先のことであるため、改めて日程調整の連絡をさせていただく。

(5) その他

(企画振興部長)

今年度の外部評価が終了するに当たり、一言お礼を申し上げる。

7月上旬から本日に至るまで長期間、委員の皆さまには慎重審議いただき、実りある外部評価結果をまとめることができた。個々の事業に対しても、専門的な立場・市民目線に近い立場から様々な貴重な意見を頂くことができた。

本年度の委員会では、過年度に外部評価に諮られた事業のその後に対する指摘を多く受けた。委員会で頂いたコメントに対しては、少なくとも再来年までには改善できるような方策をとらなければならないと考えているが、過去と同じことを繰り返しているという点は事務事業を所管する部署として大いに反省すべき点であると認識している。部長間での意見交換・情報共有の場を毎週開いているため、本件も含め、外部評価で頂いた意見をしっかりと共有したい。

12月には行政評価の結果を議会に報告する。そこで、どのような意見があったかも含めて、第7回で報告したい。引き続きの協力をお願いしたい。